令和２年10月11日

令和２年度　県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」実施報告書（4）

第４回「森林の密度管理～理論と実践～」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題　名	ちば里山カレッジ「森を知ろう・森に学ぼう」 第４回「森林の密度管理～理論と実践～」 講義：「相対幹距比による密度管理」 講師：ちば里山センター　　伊藤　道男 実習：「調査・選木・伐採」① 講師：ちば里山センター　　伊藤　道男 講師：森林インストラクター　二宮　　豊 講師：グリーンセイバー　　友塚　新樹
日　時	令和２年10月11日（日）　10：00～15：00
会　場	市民ふれあい公園（富津市）
出席者	受講生８名（４市）・講師３名、スタッフ２名
内　容	10：00～11：00　講義：「相対幹距比による密度管理」 講師：ちば里山センター　　伊藤　道男 11：00～12：00　実習：「調査・選木・伐採」① 講師：ちば里山センター　　伊藤　道男 講師：森林インストラクター　二宮　　豊 講師：グリーンセイバー　　友塚　新樹 12：00～13：00　昼　食 13：00～15：00　実習：「調査・選木・伐採」② 講師：ちば里山センター　　伊藤　道男 講師：森林インストラクター　二宮　　豊 講師：グリーンセイバー　　友塚　新樹
	・第４回里山カレッジは富津ふれあい公園レクチャー室および樹林地で行われた。 ・伊藤道男講師は、森林を管理の手法について、造園的手法、農林業的手法、生態学的手法の３つの観点をあげた。樹木が込み合っている中では、森林に降り注ぐ太陽エネルギーを取り込もうとして競争になる。これをいかに分け合うか、そこに間伐の考え方がある。 ・経年変化によって樹高は成長し、樹冠は上のほうに移動する。さらに下層植生のない林地では表層の土壌が流されてしまい、やせた土地になる。樹木にとって生育に良い条件が失われていく。 ・樹林の込み合い度は収量比数、相対幹距比、樹冠密度、形状比、樹冠長率の物差しで測る。これに加え相対照度を計測し、間伐による調査地の明るさの変化を知ることができる。 ・講義を終え、公園内の調査地で２班に分かれ、調査地を決定した。 ・調査地の中心にポールを立て、メジャーを使い、半径5.6メートルの円周をなぞるようにテープを張り、100㎡の調査地を囲った。

	・調査地の平均樹高、立木の本数カウント、相対幹距比を割り出し、相対照度を計測した。 ・伐採する樹木を選び、選木理由として、１班は「明るく、軽い森にするため」。２班は「常緑樹に囲まれ、常緑樹だけでなく落葉広葉樹も育つようにして季節を感じられる森にしたい」ことを挙げた。 ・伐倒木はおおむね直径 10～15ｃｍほどだったが、なかにはかかり木になる伐倒木もあった。ロープでけん引して引き倒した。伐倒木の枝は園路の目印に使った。 ・１班は樹高 12m、伐採前の相対幹距比 14.7、伐採後は 16.3。２班は樹高 12m、伐採前の相対幹距比 13.5、伐採後は 20.2 となった。 ・相対照度は１班の伐採前 4.8%が伐採後 8.2%、2 班は伐採前 5.3%が伐採後 8.3%となった。 ・両方の調査地とも伐採後は明るい森の様子になり、受講生は納得感の表情だった。 ・作業後に「一つ一つの作業の積み重ねと調査の手法がわかってきたことが収穫だった」と受講生から感想が述べられた。 ・講師、スタッフ、受講生のマスク着用、会議室内の密接空間を避け、テーブル、椅子のアルコール消毒、入り口での体温測定と手指アルコール消毒、トイレ使用後の手指アルコール消毒に努めた。

添付資料（写真）

伊藤道男講師の講義

受講生の皆さん

1 班テープで調査地づくり

2 班テープで調査地づくり

樹高計測のため伐倒

間伐前照度計測

かかり木処理を考え中

伐倒後の枝処理

かかり木処理中

間伐後の照度計測

間伐後の評価は？

間伐後の枝で園路つくり

報告書作成　　藤田　　隆